



「⑤稲村ヶ崎・磯つたいのみち」は滑川が由比ガ浜に注ぐ川口がスタート
案内板は生垣に隠れて見えにくい。



道標に案内されて、タイルで舗装された遊歩道を歩く。



歩道には素敵な方位板が埋め込まれていた



私は西に向かっているから、長谷大仏と同じ方角だ



「源実朝の句碑」 ”世の中は つねにもがもな渚こぐ 海人の小舟の綱手かなしも”
藤原定家選の小倉百人一首の一枚。 奈良時代から鎌倉時代までの秀歌百枚の一つ
源実朝は第三代将軍（1192-1219）鎌倉右大臣。頼家の子「公暁」により暗殺される
28歳。これで源家嫡流は途絶え、北条の世となる。



モダンなモザイクタイルが稲村ヶ崎まで案内してくれる



「稲村ヶ崎」鎌倉側から見た磯つたい 岩は剣崎と同様泥岩
今、潮が少し上げてきたが、十分歩くことができる（降りることは禁止）



「稲村ヶ崎」七里ヶ浜側から見た磯つたい、こちら側からも歩ける



「国指定史跡 稲村ヶ崎新田義貞公渡渉伝説地」
元弘三年（1333）新田・足利連合軍は、極楽寺坂切通の攻略で苦戦する、
新田義貞は剣を海中に投じて波を鎮め、渡渉に成功し、鎌倉突入に成功した。



「七里ヶ浜辺」明治43年1月、逗子開成中学生徒12人は、ボートを漕ぎ出し遭難
全員死亡する。同校の三角錫子が「真白き富士の根（嶺）」を作詞し一世を風靡する。
”ボートは沈みぬ千尋の海原 風も波も小さき腕に 力も尽き果て呼ぶ名は
父母 恨みは深し七里ヶ浜辺” (ジェレマイア インガルス作曲)



七里ヶ浜を過ぎれば、小動（こゆるぎ）はすぐ。



外国人御用達の撮影ポイントを通る、私も記念に一枚パチリ（七里ヶ浜駅前そば顕証寺前）



もう一か所、多くの外国人がカメラを構えるスポット（鎌倉高校駅前）



「満福寺」源義経の腰越状で有名なお寺
元暦二年（1185）兄頼朝の怒りを買い、申し開きをしようと京から来たが、
鎌倉入りを阻止されてしまう。釈明文を書いたが許されず、空しく京に戻る



「小動神社」（こゆるぎじんじゃ） 祭神：日本武尊
頼朝に仕えた佐々木盛綱が源平合戦の折り、近江の八王子宮を勧請したと云う。
幕末の天保13年（1842）遠見番所のあった所（異国船渡来の通報拠点）



遠見番所跡から見た相模湾、ここからは海が良く見渡せる



「江の島」日本百景の一つ、神奈川県を代表する観光地
5月大潮の時は、砂浜を歩いて島に渡る事が出来る（陸繋島・トンボロ）



せっかくここまで来たのだから、江島神社にお参りしてからゴールとしよう



「江島神社」祭神：多紀理比賣命、 建物は権現造り
欽明天皇 13 年（552）勅命により洞窟に宮を立てたのが始まり。鎌倉幕府の崇敬を受ける
江戸時代には弁財天信仰が盛んとなり、多くの善男善女が参詣するようになった。



ゴールは江の島大橋の袂。



片瀬江の島駅には 14 時半過ぎに到着した。32,700 歩、23.5 km であった。

この項完

関東ふれあいの道を歩く (6) 神奈川 (6) 湘南海岸・砂浜のみち) に続く